

# 遊漁者ニーズ対応型アユ種苗の利用研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成22～24年度)

担当：富士養鱒場 鈴木邦弘

## 【研究の背景とねらい】

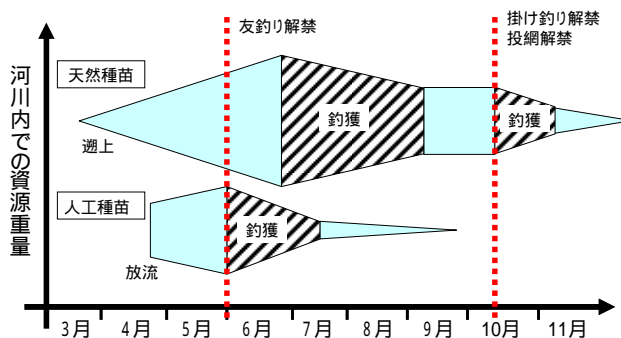
- ・静岡県は、天然アユに恵まれ県内外から多くの遊漁者が訪れるが、近年、遡上の遅れや量の不安定さに加え、質の低下（縄張りを形成しない）が問題となり、遊漁人口も減少しています。
- ・この原因については、河川環境の変化、友釣りによる淘汰など様々な影響が疑われているものの特定には至っておらず、その究明には今後も多大なる時間を要します。
- ・そのため、短期的には、内水面漁協が実施可能な具体的対策を検討し、遊漁者のニーズに応えることが重要です。
- ・そこで本研究では、品種改良により縄張性を強化することも可能な人工種苗について、放流後の釣獲特性や経済効果を明らかにすると共に、再生産の可能性についても言及し、人工種苗を用いた漁場管理のモデルケースを検討します。



友釣りで釣られたアユ

## 【期待される効果】

- ・人工種苗の放流効果が資源と経済の両面から明らかになることで、種苗の特性を活かした漁場と資源の利用が促進され、遊漁者が増加します。
- ・人工種苗の繁殖実態や、天然アユの成長や釣獲特性も明らかになることで、今後のアユ資源や漁場利用のあり方、さらには天然アユの縄張性の低下原因を検討する上での基礎資料が得られます。



種苗の違いによるアユ資源の利用イメージ  
(天然魚の釣獲の遅れを放流魚が補う)

## 【年次計画】

項目	内容	H22	H23	H24
(1)DNA マーカーによる種苗判別	人工種苗に特異的な DNA マーカーを特定し、人工種苗と天然種苗を DNA で区別する技術を確立する			
(2)人工種苗の資源生態特性の評価	放流された人工種苗について、成長や釣獲特性などを天然種苗と比較しその特徴を明らかにする			
(3)人工種苗の繁殖実態の確認	産卵場付近において、由来別の産卵状況を確認し、遺伝的かく乱の可能性について検討する			
(4)人工種苗の放流による経済効果	遊漁者への聞き取りにより、人工種苗の放流がもたらす経済効果を明らかにする			

(作成 平成22年4月)